

無限の岐路の中で

理学部長 小田垣 孝

(おだがき たかし 理論物理学)

自然界には、木の枝のごとく、幹が枝に分かれ、枝は小枝に分かれ、さらに小さな枝に分かれるという分岐が無数に繰り返されるフラクタル構造がよく見られます。

人生もまた、時間を変数に加えた四次元空間で見ますと、誕生からその終焉に至るまで、無数の岐路から成り立っています。木の枝の分岐との本質的な違いは、決してある岐路に立ち戻って、別の道をとることはできないということです。

九州大学理学部への入学は、皆さんにとって人生の最も大きな分岐点の一つです。

分岐点での選択は必ずしもすべて自分で決められず、運命に任される場合もありますが、ひとたび進み出た道は、後戻りはできないのです。かつての栄光に浸り続けるのではなく、また過去の運命や決断を恨むのではなく、辿ってきた道をいかに未来に生かすかを考えることが大切です。日々の岐路での選択が、皆さんの未来を決めるのです。

人生の晩年になって振り返ったとき、辿ってきた一筋の道が満足できるものとなるような四年間を送られることを期待しています。